

全酪連・県酪協主催「イネWCS栽培におけるバイオ液肥の実証栽培」

7月21日、上繁岡地内の水田においてイネWCS栽培におけるバイオ液肥の追肥作業が行われました。液肥を用水路から流し込むことにより、短時間で効率的に施肥できるメリットがあります。今回使用した液肥の1トン当たりの肥料成分は、即効性窒素約2kg、リン酸約1.5kg、カリウム約3kg、カルシウム約2.5kgで化学肥料の代替えとして利用することも可能と言われています。町は肥料価格が高騰していることから国や県の肥料高騰対策事業に、町独自の上乗せを検討しており、引き続き農業者をサポートしてまいります。



液肥の流し込み作業を見守る関係者

◆用語等解説

【イネWCS】牛の飼料用にイネ。乳熟期～黄熟期のイネ茎葉をモミごと収穫し密封、酸発酵させたホールクロップサイレージ（WCS）の形で利用されることが多い。

【バイオ液肥】メタン発酵の際に生成された液体肥料で農地利用することが期待されています。

※全酪連＝全国酪農業協同組合連合会

※県酪協＝福島県酪農業協同組合

福島県双葉農業普及所主催「有機野菜中間検討会・有機野菜交流会」

7月26日、松館（しょうかん）地区において有機野菜の中間検討会及び交流会が開催され、町内外の農業者約30名が参加しました。令和4年度「環境にやさしい農業拡大推進事業」の実証栽培が猪狩義久（よっちゃん農園）さんのほ場で行われています。具体的には、10月までの長期取りを目指し、肥培管理と病害虫の発生しにくい整枝、摘葉手法について実証する方向です。



光と風を入れるナスの仕立て

有機農産物に関するお問い合わせ等は、福島県双葉農業普及所有機担当（高津主任）までお願いします。高津主任は、松館地区に次ぐ有機栽培に取り組む農業者グループができることを熱望しています。有機野菜の取組拡大を目指し、①有機JAS認証の取得、②団地化と組織化、③単一品目のロット確保、④消費者が求める有機野菜を生産、⑤食育や学校給食の活用等、期待と機運が高まっています。

令和4年9月
福島県楡葉町（産業振興課）
〒979-0696
双葉郡楡葉町大字北田字鐘突堂5-6
TEL：0240-23-6104
FAX：0240-25-1234

次号の営農情報ならは②は

- ①農業者紹介リレー
- ②地元食材で料理教室
- ③農地パトロール等について掲載する予定です。



営農情報ならは②



農業者の皆様の取組みをリレー方式によりご紹介いたします！



水稲と甘藷を中心に30種類の野菜栽培、農産物加工販売・特産品開発も！

今回は、下小埸地区の古市福男さんと君江さんご夫妻の営農状況等についてご紹介します。

福男さんは、水稲の集落営農組織や猟友会にも加入しており、日頃から積極的に地域活動等に取り組んでいます。

甘藷を中心に30種類以上の野菜を栽培管理し、道の駅ならは物産館での販売やチームゆず希の加工用として活用しています。特に今年は、甘藷の新しい品種の栽培にチャレンジしたこともあり「収穫を楽しみにしています！」とお話ししてくださいました。

君江さんは農産物の加工販売等を行っている「チームゆず希」のメンバーで自家野菜や町内農業者と連携し、柚子やタマネギ等を活用した



笑顔の古市さんご夫妻

農産物の6次産業化にも取り組んでいます。櫛葉名物の柚子コロッケやボリュームのある特製弁当は特に人気が高く、道の駅ならは物産館等で販売されています。

「干し芋に適した品種を栽培したので、町の特産になるよう美味しい干し芋をつくりたい！」とおっしゃっていました。

■株式会社マルト～食育推進室の取組みについて～

7月22日、株式会社マルトによる包括的な連携協定式が行われ、甘藷をはじめとした産地づくりと6次産業化の推進、農と食による魅力創出と地域間交流の拡大、食による健康増進、地域産品を使用した商品開発等を行っていくことになりました。今後、株式会社マルト（食育推進室）と連携し、町特産の甘藷やタマネギ、柚子等を使用した料理教室や健康相談会等を行っていく予定です。産業振興課は、地元で生産された食材を地元で消費する「地産地消」等、地場産品を活用した健康づくりに取り組んでいく等、町民の皆様の健康づくりに向けた各種施策にも取り組んでまいります。



株式会社マルト様は、社会貢献活動の一環として長きに渡りに「食育」に取組み「消費者の食生活=健康」との理念から安全・安心な食品を提供することが地域への貢献と考え「食育推進室」を創出し、消費者の健康を願い食生活のサポートを目的に無料健康相談会や各種食育活動等も継続的に展開しています。

■「福島しろはとソーラー育苗ハウス」が完成！

7月29日、甘藷の大規模栽培に取り組んでいる株式会社福島しろはとファームが高付加価値産地展開支援事業を活用し甘藷育苗施設を前原地区に整備しました。

甘藷育苗施設の完成により、健全な苗を広域的に供給できる体制が整い、併せて鉄コンテナによる育苗手法で「サツマイモ基腐（もとぐされ）病」の感染防止対策を徹底する方針です。

町は甘藷一大産地化を目指し、甘藷栽培に関する各種支援事業のほか、貯蔵施設の向かい側に農林水産物処理加工施設を整備中で甘藷等の6次産業化を目指すこととしています。甘藷栽培に興味のある方は産業振興課までご相談ください。☎0240-23-6104



来賓の皆様によるテープカット



広々とした施設内を見学する参加者

■東日本初のGABA生成装置！ギャバライスで健康づくり！



GABAライス生成装置

新生ならはの創造に向けて「教育・農業・健康」の重点施策にも謳われているように、あらゆる機会を通じて町民の皆様の健康をサポートできるよう取り組んでいるところです。

健康長寿米（GABAライス）は、①GABAが白米の5～10倍、②お米として日本初の機能性食品、③無添加で安心・安全なお米のことです。

（サタケホームページより一部引用）
GABAライスを生成する装置は、町のコントリエレベーター内に設置する予定で、本年12月に運用（販売）開始の見込みです。

「**檜葉う米**」の新米販売まであと何日？
※決まり次第町のLINEでお知らせします



■農林水産物処理加工施設の概要 ～甘藷とユズの6次化施設～

檜葉町復興計画の農業分野における目標は、「みんなで楽しめる」「儲かる」「檜葉町でしかできない」で特色ある農作物の栽培を目指しています。その実現に向けて、前原地区に農林水産物処理加工施設を建設中で地元農産物を活用した付加価値が高い特産品開発や商品化、生産から加工さらには販売へと一体的な6次産業化に向けて取り組んでいるところです。

新たな商品化とニーズに対応し、甘藷や柚子の様々な農産物加工品のバリエーションが増えることにより、6次産業化が発展すること等により、新たな商品開発を行う事業者や雇用機会が増えることで移住・定住の促進効果が期待されています。



檜葉町農林水産物処理加工施設



令和5年3月に完成予定！